

いいまち 議会だより



〈12月定例会〉

井戸端会議

本当に子どもにやさしい町か … ② ▶ ③

ひとこと広場 …………… ⑨

田切道の駅堅実に(一般質問) … ⑩ ▶ ⑪

町民の声を議会へ

聾(ろう)者と歩き手話と歩む …………… ⑫

議会だよりクイズ (応募待っています)

第68号 平成27年1月15日

発行：長野県飯島町議会

かけ声が決め手(町柔道大会)

本当に子どもにやさしい町か

町議会は、11月13日文化館を会場に、昼夜2回の住民懇談会を開催しました。今回は分散会方式で、気軽に話し合いができるよう井戸端会議としました。



活発な意見交換(昼)

詳しくは町ホームページ > 飯島町議会 > 議会情報

米俵マラソン

- 町内外から野菜・米・労力の提供があり盛大にできた。町やJAの協力は今後も必要だ。
- 米俵マラソンは素晴らしいイベントだが、参加して盛り上げることで住民の課題だ。
- 中川村は村を上げて「どんちゃん祭り」を行う。飯島は地区ごとになりやすい。町が関わると盛り上がる。
- あれだけ広報しても知らない人がいた。通行規制もあるので、町

が本腰を入れる必要がある。

- 元気づくり支援金が切れてからが問題。町に頼らず、やりきる覚悟がいる。お陣屋祭りの二の舞にならないように。
- 地元の認知度を上げるため、ケーブルテレビの継続取材が欲しかった。

人口増対策は

- このイベントを継続するには、行政頼みではなく、しっかりした実行委員会が必要だ。

- 町に移住してきた人たちから「町の弱点を聞き出す機会を設けるべきだ。」

- 転入者は高額な自治会加入費や運営費に驚いている。

- 自治会費の減免処置など、受け入れ体制の環境整備が必要。

- 転入者とのトラブルがあるが、生活スタイルの違いをお互いに理



保育環境を整えて(夜)

- 解する必要がある。折り合いを付ける努力を。
- 耕地・自治会や区会などの会計の透明化が必要だ。
- 若者定住には安価な土地の提供が必要だ。
- 町内の買い物環境の整備が必要。Aコープが休みだと買い物するところがない。
- 企業誘致に頼らず仲間が仲間を呼ぶ「仲間づくり」が効果をあげ
- 「子どもにやさしい町」の実感はない。直接給付だけでなく、通

- 学路の歩道整備・街路灯の充実・ファミリースポーツ体制・病児病後児保育・保育時間の延長などが必要だ。
- 保育環境が整えば、勤務地が他市町村でも飯島町に住みたくなる。
- 人口減少に対応する総合窓口など、役場の機構改革が必要だ。

町農政の在り方

- 国からの交付金を営農センター経由で農家に配布している。今後のために一部を軍資金として残すべきだ。

- 三鷹台のアンテナシヨップのコンセプトを明確にし、協力体制の強化を図るべきだ。
- 営農センターはコメづくり偏っており「1000ha自然共生農場づくり」とは言えない。
- J A上伊那はどういう立場か。金融機関化している。
- 米俵マラソンはうまく案なので、拡大していけばよい。

町への要望・その他

- 道の駅の従業員が定着しない。サービス低下につながる。町長が駅長なので利用組合に改善を依頼すべきだ。
- 道の駅は平日の週1日ぐらい、午後6時半まで開けて欲しい。
- 駅前活性化に町主導の組織と地域づくり委員会の2本立てでは、うまくいかない。
- 区は財産管理と水路管理に専念すべきだ。今それ以外の仕事が多すぎる。町からの押し付けである。
- 柏木グラウンドを芝生化すれば、県レベルの大会や合宿が見込まれ、町のPRになる。

- 医師不足に早急な対応を。
- 住んでいると気づかないが、飯島町にはいいところがある。「飯島のいいところ探し会議」があれば良い。
- イベントは多いがまとまりがない。
- 数あるイベントを一つにまとめる必要もある。
- 商工会が停滞している。軸となるよう頑張つて欲しい。
- イベントの中で特産品を育てていくことが必要だ。



課題浮き彫りに(まとめ)

議会が町民に直接よびかけた新しい試みの中で、密度の濃い意見交換ができたと言議員全員が感じました。

議会や議員が解決できるものは解決に向けて取り組み、できないものは町へつなぎ、町政の発展に寄与してまいります。

森を生かそう

林務委員会と合同研修会

議会は町林務委員会と11月11日に合同で研修会を行いました。

林道寺社平地籍での町有林の境界確認を行いました。前回から30年以上経過しており、境界目印の番号が飛んでいる状況でした。

また、通ヶ沢治山事業や町民の森の間伐状況を視察しました。

現地調査後の懇談会では、伊那谷総合治山事業所から、今年度終了する「民有林直轄治山事業」の説明を受けました。

続いて行われた意見交換の中で「町や議会は森林管理や今後の山の活用をどう考えているか」という質問が出て活発な討議になりました。

この討論内容を後日の議会全員協議会で話し合い、関係議員*の発議で「森を生かす」意見書を国県に提出することになりました。

また、一般質問でも町の考え方をただす質問ができました。

*森林・林業・林産業活性化促進議員連盟委員(5人)

平成二十七年新年の挨拶

町民の皆様方にはご壮健にて、平成二十七年の新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は新たに分散会形式での住民懇談会を持ち、皆様の本音・生の声をお聞きできました。頂いた意見などを踏まえ、それぞれの議員が一般質問を行ってきました。必ず政策に反映できるものと確信をしているところです。

人口減少・少子化・超高齢化社会に直面しており、町政としてこれらの点にどう対処していくのか、議会としても町民の方々とともに、よりよい方向を目指して活動してまいる所存であります。

本年の千支、ヒツジのように穏やかな一年でありますようにお祈り申し上げます。

飯島町議会議長 松下寿雄

県町村議会議長会から松下議長に、地方自治への功績をたたえる表彰状が授与されました。

田切拠点施設(仮道の駅田切の里)

事業着手に7234万円補正

堅実な経営計画を望む

平成26年12月定例会は、5日から15日まで11日間の会期で開催されました。

初日に平成26年度補正予算案7件・条例案7件・その他4件を審

議・可決しました。

条例案4件・陳情4件は2つの常任委員会に分割付託され、本会

議最終日に委員会審査結果どおり、これらを採択しました。

また、議員発議の決議2件、意見書5件が提出され、本会議で討

論・採択されました。一般質問には11人が立ち、町政をただし

ました。



道の駅田切の里 建設予定地

主な使い道

▽田切拠点施設 7234万円

▽障がい者自立支援 726万円

▽衆議院議員選挙費 594万円

▽庁舎玄関ホール改修など 539万円

▽福祉医療給付費 500万円

▽中央道跨道橋修繕 400万円

▽ふるさと応援寄付積立金 360万円

▽養護老人ホーム入所措置費 330万円

▽障がい児通所等支援 278万円

▽ふるさと応援お礼特産品ほか 203万円

▽七久保診療所下水道継ぎ込み 170万円

▽住宅建設資金利子補給金 120万円

▽小中学校音楽室木製椅子 129万円

▽太陽光発電設置補助 100万円

▽雪害被災者支援確定により減額 ▲3956万円

特別会計

主な使い道

国民健康保険

◇保険給付費 6000万円

後期高齢者医療

◇事務費 7万円

介護保険

◇ケアマネ給与ほか 56万円

公共下水道

◇汚泥脱水車修繕 620万円

審議から

問 玄関ホール改修は、現場職員の意見を聞いたか。

答 風除室は設けたいが、詳細は意見を聞き決定。

問 汚泥脱水車は古い

が、修繕で大丈夫か。答 今後10年間は更新の必要が無い。

会計区分	補正額	補正後の総額
一般会計	8857万円	46億3759万円
特別会計	国民健康保険	10億3312万円
	後期高齢者医療	1億2330万円
	介護保険	10億9342万円
	公共下水道	4億1808万円
	農業集落排水	3億121万円
	水道事業	補正なし
合計	1億1945万円	79億6084万円

補正予算

1万円未満切り捨て

オレオレ詐欺撲滅などを町ぐるみで

議会が懇談会などの活動の中からくみ取った課題を協議し、議員発議により3件を議決しました。

陳情の本会議審査結果

内 容	提出者	付託	結 果
農業改革の見直しを	上伊那農民組合	総務	趣旨採択 賛成11 - 反対0 意見書提出(議会案) 賛成 陳情の趣旨を一部取り入れ、飯島町の状況を勘案し別途意見書提出すべき。
政府による緊急の過剰米処理を	上伊那農民組合	総務	採 択 賛成10 - 反対1 意見書提出 反対 根本的な解決を考えるべき。 賛成 適正在庫調整をすることは必要。
安全・安心の医療・介護の実現と夜勤改善・大幅増員を	長野県医療労働組合	社文	採 択 賛成11 - 反対0 意見書提出 賛成 勤務環境が厳しく離職者が多い、改善・増員は必要。
介護従事者の処遇改善を	長野県医療労働組合	社文	採 択 賛成11 - 反対0 意見書提出 賛成 安定して生涯働くために処遇改善は必要。

議 員 発 議

内 容	提出者	付託	結 果
特殊詐欺被害を防止し、町民の安全と安心を確保する	橋場みどり議員	—	可 決 賛成11 - 反対0 決議 賛成 町民一人ひとりの危機意識を高め、あらゆる施策を講じて取り組む必要がある。
町は森林整備の推進を国に求めること	浜田稔議員	—	可 決 賛成11 - 反対0 決議 賛成 林業の担い手である山村の再生に向けて積極的に取り組むことが極めて重要。
国による森林整備の推進を求める	折山誠議員	—	可 決 賛成11 - 反対0 意見書提出 賛成 決議を受けて議会として国県への働きかけが重要。

決議とは……議会の意思として町に働きかけること
意見書とは…議会の意思として国県などに働きかけること

条例改正

町条例11件を全員一致で可決。

子ども・子育て支援法等の施行に伴う

新設条例

◇設備及び運営の許可基準

◇運営の基準

◇放課後児童クラブの設備及び運営基準

一部改正

◇町営保育園の設置等

人事院勧告による一部改正

◇特別職の給与改定

◇一般職の給与改定

◇教育長の給与改定

関係法律・政令の改正に伴う

◇消防副団長の任免

◇消防団員等公務災害補償条例の条項整理

◇国民健康保険の出産育児一時金内訳変更(総額42万円は維持)

◇町営住宅管理条例の条項整理

急げ！安全確保

工事中の現場を視察
確認しました。

竹の沢保安林保全
緊急対策

土砂災害を防ぐための
護岸工事・谷止工事
・床固め工事です。平
成27年2月には完成予
定です。

跨高速道路橋
はく落補修工事

◆北原橋・北原水路橋
・豊岡橋
コンクリート壁に木
片・手袋・鉄筋が露出
しています。
◆上ノ原橋・上ノ原第
二水路橋
橋を支える大事な鋼
線28本の1本が緩み、

橋の異常な変形と橋底
のひび割れが生じてい
ます。

公団施工時の不備と
みられる箇所も認めら
れました。補修には町
も大きな負担を強いら
れる事になり、憤りを
感じました。

「サル」捕獲おり

鳥居原に広さ12m四
方、高さ2・7mの
「サルおり」が設置さ
れました。鉄板の返し
で指がかからず、柵外
に出られない仕掛けで
す。
これまでの設置実績
から、群れごと入りこ
むので効果が期待され
ます。

補正予算審査

平成26年度一般会計
補正予算の分割付託分
を審査し、全員一致で
可決すべきものと決定
しました。

【質疑】

問 役場庁舎事務室改
修工事の詳細は。
答 1階窓口の壁撤
去・風除室設置。

問 田切拠点施設等の
用地詳細は。
答 水田6280㎡・
畑40㎡で単価7500
円。宅地341㎡で単
価8500円。

【賛成討論】

細かい説明を受け、
妥当性を理解した。田

切拠点施設の経営根拠
となる、掘り下げた情
報開示を求め、今後の
努力を期待する。

陳情審査

趣旨採択 陳情 国へ

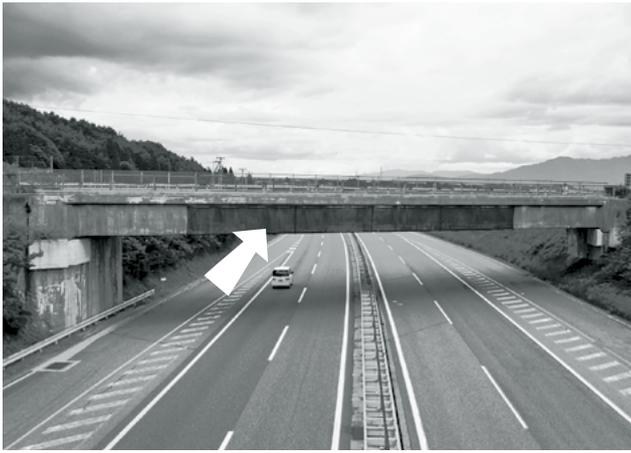
農業改革の見直しを

提出者
上伊那農民組合
竹上和彦氏
賛成5 反対0
◆内容
担い手支援の諸制度充実を求める。
趣旨には賛成。状況の変化もあり、
議会としての意見書を提出しては。

採択 陳情 国へ

過剰米の緊急対策を

提出者
上伊那農民組合
竹上和彦氏
賛成5 反対0
◆内容
過剰米で米価が下落している。政
府の責任で対策を。
賛成 肥料の値上がりでやっていか
れない。
賛成 これ以上値下がりますと、農
業では地域の雇用を守れなくなる。



落下の危険

保育環境の充実を

法制定に伴う子ども子育て関連の条例審査を行いました。

現場調査では、町指定管理施設「やすらぎ」の運営状況を視察し、利用者が毎月増加していることを確認しました。

また建設中の「生協総合ケアセンターいいじま」の町補助事業を含む全体の状況を、関係者から聞き取りました。

条例審査

本会議で付託された4条例案を審査し、全て全員一致で可決すべきものと決定しました。

◆地域型保育事業の認可基準

〈意見〉

● 毎年事業を見直し、未満児保育充実などの要望に応えるべきだ。
● 子どもが儲けの対象にならないよう留意すべきだ。

● 保育の多様性があって良いが、事業の外部評価は行うべきだ。

◆教育・保育施設と事業の運営基準

〈意見〉

● 未満児保育の待機者がある。運営基準に沿い、行き届いた保育の実現を求める。

● 密室の虐待防止など、チエック機能を果たすべきだ。

◆放課後児童クラブの運営基準

〈意見〉

● 災害時における児童の安全対応を明確化するべきだ。

● 長期休暇以外も、七久保地区での実施を検討すべきだ。

● 運営職員の確保と処遇改善を求める。

◆町営保育園の設置条例の改正

補正予算審査

平成26年度一般会計補正予算の分割付託分を審査し、全員一致で可決すべきものと決定しました。

【質疑】

問 就学援助費対象者数は。
答 飯島小37人・七久保小21人・飯島中27人である。



保育園の雪遊び

問 養護老人ホーム入所状況は。
答 3人増えて8人になった。
問 障がい児通所支援事業の対象者数は。
答 4月から8月までは4〜5人であったが、9月より11人と増えた。

陳情審査

採択 陳情 国へ
医療・介護者の労働環境改善を

提出者 県医療労働組合連合会 小林吟子氏
◆内容 医療・介護者の労働環境改善による大幅人員増を求める。
【賛成】在宅医療を見据えた人員確保は重要。
賛成5 反対0

採択 陳情 国へ
介護従事者の処遇改善を

提出者 県医療労働組合連合会 小林吟子氏
◆内容 介護職員の報酬改善を求める。
【賛成】低報酬による離職者が多く、従事者の処遇改善が必要。
賛成5 反対0

三鷹アンテナ シヨップ開店

臨時議会が10月23日に招集され、一般会計補正予算と消防団車両の売買契約を全員一致で可決しました。

一般会計補正

主な収入源

- ◇町有地売却 55万円
- ◇建物共済 72万円
- ◇予備費 649万円

主な使い道

- ◇アンテナシヨップ運営など 275万円
- ◇融雪剤散布機購入 149万円
- ◇除雪機購入補助 143万円
- ◇ソング&ダンス経費 33万円
- ◇七小修理費など 88万円

質疑

問 アンテナシヨップの売れ行きは。

答 2日で440人、32万円の売上げ。野菜がよく売れた。

問 ソング&ダンスの総費用は。

答 本年度分590万円で、3分の2は元気づくり支援金。

問 除雪機補助は今回で終わりか。

答 まだ予算はある。

栃木県内を10月8日～9日に視察研修

町ぐるみの環境保全

総務産業委員会

茂木町有機物リサイクルセンター「美土里館」

平成23年に「環境立町」を宣言し「美土里館」を設立。生ごみ・牛糞・もみガラ・落ち葉・おがこ・間伐材などを一括堆肥化するプラントです。単なる堆肥工場に終わらず、環境保全型農業・ごみのリサイクル・森林保全・農産物の地産地消を目的に推進しています。

さらに、世界初の機械で竹を粉末化し竹粉（乳酸菌発酵のエコ資材）も製造しています。荒廃していた竹林は整備されていきます。

これらの取り組みは、住民・企業の理解と協力で成り立つことを痛感しました。



世界初の機械(MBP1)

外国人観光客を町へ

海外ホテルマンのパイオニア、内山芳朗氏はたびたび飯島町を訪れ、愛着をもたれています。

「外国人観光は地方の時代となる。地方に風をおこせ・交通の利便性が大事・町のパンフレットを英文に。」などの助言を頂きました。

飯島町に南部県庁の設置を

中部伊那町村議員研修

中部伊那町村議会（飯島・中川・松川・大鹿）は10月16日に大鹿村で研修会を開催しました。飯島町議会は、県施設のない飯島町に、南部県庁設置を求める意見書を提出しました。他町村からはリニアと

環境関連など6件の議題が提出され、いずれも採択、知事に要望することになりました。また「南アルプスの地質とリニアについて」と題し、大鹿村中央構造博物館学芸員河本和朗氏の講演が行わ

れました。

氏は『リニア中央新

幹線のトンネル工事は、南アルプス中央構造線をはじめ、多くの断層を抜いていくものであり、地殻変動が起りうることを想定しなくてはならない。』と語られました。

豊富な映像で分りやすく、工事の難しさや膨大な量の残土処理運

搬など、課題も浮かび上がりました。



リニア トンネル口付近

ひろば

ゆきかきがくは、て下さい。
飯島町をよりよくしていき
て下さい。がくは、て下さい。

議会だよりはとても読み易く、親切に造られて
いると思います。特に2.3P折れ線グラフに
「少ない程良い」とか書いてあって良い。
追跡「あれどうなった」も面白い。
クイズのお陰で良く読む様になりました。

住みやすく好きです!!

編集作業頑張ってください!!

もう少し飯島のことを
載ってほしい

楽しいイベント
期待しています!!

いい問題だね。

新しいいいちやんと
がくは、ていって下さい。
楽しいイベントまっています!!

お仕事がへげってください

このほかに「除雪の応援」や「町長への激励」のメッセージがありました。

身近に感じる議会に

議会広報委員会

全国町村議会広報コンクール受賞歴のあ
る2つの町議会を、11月18日〜19日に視察
しました。

●大町(愛知県)

町の「ふれあいまつ
り」に来る人達に「議
会だよりアンケート」
の協力を議員自らお願
いしています。同時に
議場を開放し、表紙用
に撮った写真を展示し、
希望者に提供していま
す。

議会だより制作に参加
し、親しみを感じまし
た。採用された子ども
には表彰状が贈られま
す。

希望者に提供していま
す。

両町とも議会を身近
に感じられる取り組み
をしており、大変参考
になりました。

●久御山町(京都府)

表紙の題字
「くみやま」
を小学1年生
が書いていま
す。子どもも



子育て支援策で交流

斑鳩町議会交流

友好都市斑鳩町と10
月29日〜30日に定期交
流しました。

高齢者福祉施策を紹介
しあい、意見交換しま
した。

両町の子育て支援と

心と生活を支える 聴導犬

上伊那議員研修会

宮田村民会館で10月
7日に村にゆかりのあ
るお二人を迎え、講演
と研修を行いました。

第一部は「ヨーロッパと日本の音楽の比較」と題し、兎束俊之さんの生演奏を交えたお話を聞きました。

兎束さんは世界的ピオラ奏者で、宮田村ふるさと大使です。

第2部は身体障がい者の「心と生活を支える聴導犬・介助犬」と題し、日本聴導犬協会長の有馬もとさんから聴導犬訓練の実践を交えた説明を受けました。「人と動物が支えあうまちづくり」が少しでも広がることを願いました。

町政を問う

ここが聞きたい

11議員が質問

「一般質問」とは行財政にわたる議員主導による政策の議論です。(通告順)

久保島 巖	道の駅 田切の里	堅実な計画を	……………	P11
竹沢 秀幸	産後ケア費用	助成制度創設を	……………	P12
坂本 紀子	町の農産物	販路拡大の政策を	……………	P13
橋場みどり	観光振興	外国人誘客を	……………	P14
北沢 正文	与田切川流域	有効活用を	……………	P15
中村 明美	ふたつのアルプス	絶景ポイントをホームページで	……………	P16
折山 誠	豪雪対策	地域力低下に危機感を	……………	P17
三浦寿美子	介護保険	新制度でどう変わる	……………	P18
本多 昇	自治会？耕地？	行政主導で早急に統一を	……………	P19
堀内 克美	人口対策	消滅からの生還策は	……………	P20
浜田 稔	地方創生法	衰退に根本対策を	……………	P21

追跡

あれどうなった

一般質問・審査での意見・請願陳情その後のゆくえ

平成24年3月定例会 一般質問

問 新入生の机と椅子を木製にしたかどうか。
答 全教室は難しいが、特別教室は検討したい。

その後

平成26年12月定例会で予算化



飯小(35脚)・七小(30脚)・飯中(35脚)
音楽教室に導入予定。

上伊那材の椅子

平成26年3月定例会 一般質問

問 災害時の施設表示に多言語シート*を作成すべきだ。
答 避難所20カ所ほどへの設置を検討する。

その後

平成26年12月定例会で予算化

多言語対応パンフレット作成。
しかし施設内多言語シートは未実施。

*各国語の案内標示



久保島 巖

道の駅 田切の里

堅実な計画を

過大とは思わない 町長

問 仮称「道の駅田切の里」の可能性はどうか。

答 認可された場合の負担の割合は。

町長 駒ヶ根・中川にも同意をもらい、県に要望書を出した。おおむね県の理解をもらった。

問 国の道の駅第2ステージのモデル事業にも名乗りを上げた。見通しでは、国31%・県26%・町43%の計画だ。モデル事業になれば交付金の支援がある。

問 計画書では直売所1日の利用者は150人で単価1000円だ。調査機関によれば、平均886円であり、過大見積もりだ。

答 予定地付近の12時間通行量は平成22年に7474台だった。計画では13200台が必要で、これは座光寺以上の通行量だ。

道の駅駐車場は10

0台が標準だが、計画では70台だ。それに合わせて、施設は適正規模に縮小すべきだ。

町長 通行量はリニア駅へのルートとしての期待もある。

正式な認可となれば、厳しいチェックがあり、ヒアリングを受けて全体計画が決定する。建物は1000㎡規模にしたい。今の段階では過大ではないと判断している。

問 町は七久保と同様に運営助成金を出すか。

町長 最初の3年間くらいは必要だと思う。

問 駐車場の規模からは建物600㎡で物販300㎡・飲食150㎡が適正規模。計画の350㎡のレストランは過大で、そば店と2つは無理だ。金のかかる厨房も2ついる。

道の駅計画予定地



投資金額を抑えるべきと考えるが。

町長 モデルに入るようなインパクトある施設でスタートしたい。

問 この計画に町は積極的に関与していくか。

町長 事業主体としての責任、運営にはチェック機能を果たしていく。

ソング&ダンスの普及は

問 お披露目は大成功だった。今後の普及活動はどうか。

総務課長 耕地・自治会・公民館・学校などにCD・DVDを配布している。出前講座の依頼もあり、今後これらを中心に普及していきたい。

問 配布してお任せでは普及できない。積極的にイベントを計画し、様々な催しでの普

及活動も必要だ。

CDの販売ができるように契約の見直しはできないか。

総務課長 販売はできない。CDは増やせるが、予算の関係もあり改めて検討する。

問 CDは欲しい人に分けてもらえるか。

総務課長 その通りだ。

問 「ふるさとの愛しいね いいじま」は素晴らしい歌とダンスになった。子どもたちに受け継いでいってほしいが。

教育長 私も特別な思いを持っている。強制はできないが、中学校では授業に、また女性コーラス発表会への参加などが期待できる。

クラスの歌にも取り上げてもらうなどが考えられる。子供たちの実態に合わせて現場で取り組んでもらいたい。

〔以上2件質問〕



竹沢 秀幸

産後ケア費用

助成制度創設を

新年度予算で前向きに検討 町長

問 安心して育児ができる環境づくりのための制度を創出し、人口増加を。

出産後の母親と新生児を対象に産後ケア費用を助成しては。

町長 子育て支援は、新年度も引き続き町の重要政策として更なる充実を図っていく。

特に妊娠前から子育て期が安心安全に過ごせるよう、切れ目ない子育て支援事業や仕組みの構築は喫緊の課題だ。子育て中の人から母乳相談や育児相談と妊婦検診費用補助の要望が大変多い。

新年度予算編成に向けて前向きに検討したい。



猿が出没した通学路

通学路に出没するサル対策を

問 台風18号通過後、日影坂通学路にサルが出没し、通学途中で引き返した生徒がいた。

危険防止対策をすべきだ。

教育長 通学路で出没した折は電子メールで保護者へ通知した。また職員が現地付近のパトロールを行ってきた。遭遇したときにどう対応できるかという能力を育てることをまず優先したい。

らうことが大事だ。

教育次長 給食センタ―では、子どもの多様な嗜好に対応できる献立を工夫している。これは献立委員会における委員の声でもある。

当面は現在の「週4日米飯」を基本とした献立の編成を続けていきたい。

問 町が財政負担し、学校給食費の無料化を提案するが。

町長 現在保護者が負担している学校給食費の総額は約4700万円である。これを全額町が負担するのは財政面から難しい。

子育て支援は総合的な施策で進めていきたい。

役場HPにキッズコーナーを

問 現在役場ホームページにキッズコーナーがない。子どもがイン

ターネットに触れる機会が増えているので、町PRのためにも設けるべきだ。

町長 町内の子どもたちには、ホームページに限らず、行政を分かりやすく伝えていくことが大切だ。また、全国的に情報発信するためには、ホームページも大事である。

新年度更新時期に合わせて検討する。

(以上4件質問)



坂本 紀子

町の農産物

販路拡大の政策を

プロジェクトを作り推進 町長

問 国がTPPに参加すると、農業生産者へのダメージは、政府報道より大きい。米産地としての当町の先進的な取り組みは大いに評価する。

農産物の販路拡大や飯島産の知名度を上げる政策を早急に作るべきだ。今年10月から始めた東京都三鷹市のアンテナショップは立地条件もよく、今後もっと力を入れては。

町長 都市住民に飯島を知ってもらうために始めた。これまでの週末営業で多くの人から好評を得た。

今後1月から3月は店舗所有者を核に隔週で職員が協力、4月以降は平日オープンで販売員を現地雇用したい。

問 今は開店日に職員が農産物を車で運び、ホテルに泊まり販売している。建物の1階を改装したが、2・3階

の台所や風呂は未改装で使えない。

設備投資や販売員への基本的なスタンスは。

町長 職員出張は経費が掛かるので宿泊も含め検討し、今後は給湯・空調など最小限の設備をしたい。販売員は現地採用で、イベントなどは職員も協力する。

問 米の販売はJA頼み。多面的な販売をするため、4法人や町・個人が出資し販路拡大と作物の企画をするチームを作るべきだが。



三鷹のアンテナショップ

町長 出資組合でなく、関係者と話し合い共同連携体制を整備したい。

問 11月9日に第2回米俵マラソンが開催され、インパクトのある取り組みであった。米俵作り・交通整理・悪天候時の問題も残った。町の今後の関わり方はどうするのか。

町長 約400人のランナーが参加し、町内ボランティアの協力で開催。雨で残念だったが、米や俵のPRに貢献してもらい、良かった。

た。

町は元気づくり支援金のサポートをしながら、極力支援体制を整えたい。

問 PRとルートの安全をサポートすべきだが。

町長 情報発信は町も手伝う。安全面では、駒ヶ根警察署や安協とのパイプ役になり協力する。

問 斑鳩町や鳥羽市との交流で農産物の積極的な売り込みを。

産業振興課長 斑鳩町の産業祭りに出店し10数年になる。売れ筋はリンゴである。

鳥羽市は10月の鳥羽マルシェで、初めて出店しリンゴを販売した。今後は年間を通じて企画展を働きかける。また、カキ殻を使った農産物の栽培も研究したい。

問 ふるさと納税が昨年の10倍になった。お

礼の品に宿泊割引券・そば打ち体験などを加え、観光や農産物販路拡大・定住促進につな

町長 飯島ファンが増え好評である。米やリンゴは予定の数がなくなり断っている。来年は知恵をめぐらし要望に応えたい。

問 今後ふるさと納税が増えても所管部署はそのままか。

町長 全体の中で組織改革を検討中。

問 農業者の所得アップのため、販路拡大の長期ビジョンに早急に取り組むべき。

町長 JAとの連携は当然。自社ブランド化や独自の販路を開拓する必要はある。関係者とプロジェクトを作り推進したい。

〔以上1件質問〕



橋場 みどり

観光振興

外国人誘客を

外へ目を向ける施策で 町長

これだけ条件が揃い、内山氏の後押しの中で誘客していけば、国際色豊かな楽しい町づくりにもつながる。今から外国人誘客の取り組みをしていくべきだ。

町長 長野県には、外国人誘客により観光立県をレベルアップしていく熱意がある。上伊那広域連合もいろいろな要素を取り入れ、拠点エリアとして伊那谷を売っていく。そのためには各市町村が連携

し、取り組んでいかなければならない。国内はもとより、海外に目を向ける施策を講じていきたい。

(以上2件質問)

問 今年6月定例会一般質問で、ふるさと大使をホームページに載せてはどうかと質問をした。『実施する。』という答弁だったが、その後どうなったのか。

町長 全員の顔写真を含め、ホームページに掲載したいと交渉してきた。

しかし、写真・経歴を含め全員の承諾は得られていない。今後どうするか再検討したい。

問 県や他市町村のホームページを見ると、生活ガイド・観光情報が4か国語あるいは英語に翻訳されているところもある。

町には外国籍住民もいる。生活ガイドや観

光情報を発信するために、ホームページに英語版だけでも載せるべきだが。

町長 町民向けの暮らしや行政情報、町外向けPR情報の2つから構成されている。他の市町村を見ても、在住者以外の人に向けた情報が増えてきている。また災害に関する情報も求められている。ホームページを含めた自治体の情報は、最近多岐にわたり密度が増している。

次年度に、ホームページの大々的なリニューアルを検討している。外国人向けの英語版など、より良いホームページになるよう検討していく。

問 総務産業委員会の研修で内山芳郎氏と懇談した。ホテル業界の長い経験から『観光パンフレットは日本語だけでは駄目だ。最初は英語を加えるだけでも良いので作ったら。』と助言があった。

町長 2011年版の町勢要覧は英語併記をした。現在の観光パンフレットに外国語表示は無い。これまで2年ほどで改訂版を出してきた。他の市町村・上伊那広域連合・県全体の発行物にも外国語表記がある。

今後、パンフレットはグローバルな考え方で、必要に応じ多言語化に取り組んでいく。

揃った条件 どう生かす

問 「ふるさとオンラインワンの町」第5号に認定された。「ふるさと」の愛しいいいじまのソング&ダンスもできた。東京三鷹台のアンテナショップもでき、佻マラソンも大きなイベントになりつつある。

近い将来伊南バイパスも開通し、スマートフォンでもできる。リニアも来れば交通の便が良くなり観光客が来やすくなる。



おいでなんしょ いいじまへ





北沢 正文

与田切川 流域

有効活用を

国県・町・住民と協働で 町長

問 与田切川流域を地域資源として有効活用する基本的考え方は。

町長 親しみのもてる森と川の貴重な地域資源である。計画に沿って、国県・町・地域住民と共に協働で作り上げることを基本とする。

問 堤防背後地の民有地も含めた有効活用は。

町長 「リバーサイド計画」、「21世紀の与田切ふるさとの森と川構想」に沿って展開している。町も活動をすすんで支援していく。

問 流域資源である与田切公園の今シーズンの利用状況は。

産業振興課長 21年から上向き始めていたが、今年は8月の天候不順で前年度実績を下回った。

問 町外からの公園利用者に、町の紹介やア

ンケートの実施、農業・他の産業との交流促進、施設の有効活用が行われているか。

産業振興課長 パンプレットは置いてある。アンケートはやっていない。今後、パンフレットなどによる情報提供、アンケートを実施してリピーターを増やしたい。

問 公園を有効活用する企画と連携の主管部

署はどこか。

町長 産業振興課が各係連携の中で担当している。

大きく捉えれば、町の企画力も求められるので、総体的に整理し、新しい組織を検討していきたい。

問 親水公園の魅力を増すために、与田切河川内の雑木伐採などの整備ができないか。

建設水道課長 治水を



親水公園

基本として考えるが、景観的なこともあり、管理者である伊那建設事務所に整備を要望してきた。

12月中旬より国道153号与田切橋から上流域で伐採作業を順次実施することとなった。

問 伐採木を町の機械でチップにし、公園上流部の通路に敷き、防塵や歩きやすい健康ロードにしては。

産業振興課長 公園内歩道に実施したい。

問 与田切川流域に緊急連絡情報を伝える防災無線などの設備が必要では。

総務課長 公園管理人とも相談し、一番良い方法を検討したい。

問 公園内芝広場の休憩施設に屋根の設置ができないか。

産業振興課長 来シー

ズンまでに設置ができるよう研究する。

問 安全に公園に行くための歩道整備の見通しは。

町長 中学生の通学路でもあるので、何とかしたいと県と協議中だが、全容はまだ具体的になっていない。

課題は、岩間から柏木交差点までの歩道の設置と、道路の経年劣化である。歩道の設置にあわせて路盤の改良・照明整備・橋の耐震など長寿命化が必要と考えている。

計画期間は7年で総事業費は8億円、県営の土地改良事業で町負担は25%だ。

来年度から調査設計に着手する考えで協議している。

全体像が決まり次第議会に示し、予算付けをしたい。

〔以上1件質問〕



中村 明美

ふたつの アルプス

絶景ポイントをホームページで

積極的に取り組む 町長

問 キャッチフレーズ「信州いいじま・ふたつのアルプスが見えるまち」が全国に浸透する取り組みを考える。

町長は常々「ふたつのアルプス」と言うが、その割にホームページでの紹介が乏しい。

アルプス絶景ポイントをホームページなどで紹介し、自然を堪能できる町をPRし「飯島ファン」づくりにつなげ、集客策として取り組んで。

町長 町全体がひとつのアルプス公園だ。アルプスを背景に多くのファンが写真に収めている。ホームページで絶景ポイントを強調していくことに同感。積極的に取り組む。



絶景ポイントコーナーを

生活・通学路 整備急げ

問 危険な生活道路・通学路の環境整備にスピードをもっと対応すべき。住民懇談会で子育て中のお母さんが『町の通学路に歩道・外灯が少なく心配だ。』

町長 歩道設置計画の

これでは「子育てしやすい町」と言えない。』と不安な思いを語った。

安全な通学路は子育て世代の定住条件のひとつだ。

歩道設置計画と、防犯灯などの設置状況は適切か伺う。

町長 歩道設置計画の

一番は広域農道だと考えている。農道の長寿命化・耐震化に併せ県と交渉してきた結果、基礎調査段階に入った。

来年度から7年間ほどの長期事業になる。一部町負担もあるが詳細はこれから。

舗装改良・与田切橋の耐震など全て緊急対策に値するが、歩道設置を優先したい。他は要望に沿い交通安全・法律面を加味しながら推進する。

防犯灯・外灯は全町的にLED化し、年平均10件ほど増強している。補助制度説明は地元で毎年行っている。また町は未設置箇所の確認をしていく。

町長 歩道設置計画の

園芸補償拡大 迅速対応を

問 国は園芸施設共済事業で補償を拡充する。農家へ迅速な対応を。

町長 制度ができたばかり、今後関係者と協議し浸透を図るよう迅速に進めていく。

まいた種は 実ったか

問 町長就任3期目の公約で実を結んだものは何か、また課題は。

町長の勇気・挑戦で町民に感動が起るような取り組みを残期に期待するが、意気込みは。

町長 実を結んだこと・伊南バイパスと、関連する幹線道路網の整備。町の活性化の礎にしたい。

・防災事業の充実強化。・ごみの減量化や資源化と自然再生エネルギー

町長 歩道設置計画の

1の住民普及。
・地域づくり委員会育成支援と地域づくり支援員配置。
・医学生対象の奨学資金や開業資金制度設置。

・健康増進施策推進。
・子育て支援の充実。

課題
・農業政策／商店／雇用。

・人口減少や若者減少を免れない。消滅自治体にならない取り組み。意気込み

国の制度に頼るだけでなく、町の歴史や社会環境など振り返る中で、町独自で解決していくしかないと思っている。

残りも精一杯公約実現へ努力していく。

(以上4件質問)



折山 誠

豪雪対策

地域力低下に危機感を

中長期に対応 町長

問 平成25年12月に、局地的なゲリラ豪雪が考えられるとし、除雪力強化を求めた。2月には心配したとおり大雪となった。

数日間通行不能になった新興住宅地があった。また老人介護施設への交通が長時間不能となり、緊急時の対応が憂慮された。

そこで、この3月にもさらなる対応強化を求めたが、今季の体制は強化されたか。

町長 建設業者との除雪契約の中で維持管理費を設けた。また県は、これまで対象外であった小型ドーザーに、1台30万円程の維持経費支援を措置した。これらを受け、業者の中には数台を新規購入した社があると聞いている。さらに、県と飯島・中川が主要国県道に関する除雪協定し、連携する体制を整えた。

このように、昨年よ

り機動力が増強されたと期待している。

問 若い人は町内外へ勤め、高齢化も進み、年々自治会の除雪力が低下している。また、個人所有の大型トラックも年々数を減らし、高齢により危険な作業をためらうオペレーターも増加している。

そのために、行政力を必要とする除雪エリアが年々拡大していくことになるが、危機感はあるか。

町長 今後自治会などの体力も機械力も落ちていくと、危機感をもっている。

町長 世帯の体力戦に頼ってきた従来型の住民協働から、各地区自治会などへの除雪機械の配備やオペレーター要員の確保が必要。

策定中の後期計画の中で位置づける時期に考えているのではないか。

町長 対策を中長期的に考えたい。



いつまでできる除雪協働

アンテナショップ 展望は

問 町アンテナショップのコンセプトは明確か。

町長 都市部に飯島ファンを増やすことであり、プレオープン以来、確実に増えていることを実感している。

問 今後の展望は。

町長 飯島ファンづくりをし、自治体間の交流にまで発展させたい。今は、町の活力に対する投資であると位置付けている。

不要な公共用地 処分を

問 規模や形状で他に活用できない公共用地がある。

町長 固定資産税の収入などを考え、安価に個人に払い下げることが町民益の増進ではないか。状況を判断し、

価格も弾力的に考えた

山林保全 国の責務では

問 林務委員との懇談会で、町内山林の今後を危惧されていることがうかがわれた。地球環境の保全対策としての育林事業は、地方自治体の責務を超えるものである。

国として対策し事業するよう働きかけべきでは。

町長 国家的な考え方で進める必要があると思う。県林業公社理事の役員でもあり、声を強くして国に働きかけていく。

〔以上4件質問〕



三浦 寿美子

介護保険

新制度でどう変わる

低所得者に配慮 町長

問 現在、平成27～29年度の「介護保険事業計画」を策定中だ。来年度の予算編成も始まっており、事業計画の大枠は出来ていると判断する。

健康福祉課長 国は現在6区分だが、これから11区分になる。町はすでに幅を広げて11区分で行っている。

町長 第6期の事業計画を策定中である。

問 年金の引き下げ、消費税3%増税、医療保険・介護保険料の天引きで暮らしにゆとりがない。介護や通院、家族や本人が施設入所などしていればさらに厳しい状況である。

27年度から本格稼働するサービスマンや特別養護老人ホームの増床などにより、給付の増加が見込まれる。第1号被保険者の保険料を改正する方向である。

健康福祉課長 包括支援センターの体制を整えること、今後どのような内容になるのか。

低所得者の負担を軽減できるように試算している。具体的な保険料は検討中である。

町長 国からは、29年度までに事業展開するよう求められている。

問 保険料の段階区分

相談窓口を充実し、住民に寄り添った対応が必要だが。

問 町が主体となる要支援1・2の訪問介護事業・通所介護事業な

町は28年度まで現行制度でいきたい。29年度開始に向け、



「イチ・ニイ・サン・シ…」リハビリ職員と頑張ってます

事業所などとの情報交換や連携で、円滑な運営ができるようにしたい。

問 介護保険制度は見直しのたびに後退してきた。経過措置後に介護レベルが後退しないようにすべきだが。

町長 法律の中で、福祉後退につながらないよう努力したい。

問 早い時点で問題点を把握し、国に要望・要請をしていく必要があるが。

町長 2年間のうちに課題を浮き彫りにし、対応したい。

福祉全般の給付費の伸びがあり、国に対しては、福祉の後退が無いよう施策を講じることを、地方6団体と声を上げていく。

問 町内の不登校・引きこもりの実態はどうか。

教育長 30日以上欠席で不登校扱いとなる。該当者は3校それぞれ数名いる。

町出身の高校進学者の動向はつかんでいる。**健康福祉課長** 社会一般の引きこもりは個別の相談に応じているが、具体的な人数は把握していない。全国平均を当てはめると、町内に20世帯と推測される。

問 どのように支援をして行くのか。

教育長 学校と教育委員会、当該家庭との緊密な連携を図る。

健康福祉課長 「県引きこもり支援センター」が開設されている。町は窓口の周知、住民への引きこもりに対する啓発に努める。

ひきこもり支援

(以上2件質問)



本多 昇

行政主導で早急に統一を

住民意識調査結果で 町長

自治会？ 耕地？

問 発表された27年度
予算編成基本方針は26
年度とほぼ同じ内容だ
が。
町長 子育て支援と若
者定住・健康づくりと
地域医療確保・安全安

27年度 予算編成は

と話し合いたい。
結果を注視し、必要が
あればそれぞれの地区
に呼称の設問がある。
を行って住民意識調査
に呼称の設問がある。
に切り替えることは
できない。
現在、後期計画策定
にあたり住民意識調査

問 ふるさと納税の11

町長 子育て支援と若
者定住の視点で取り組
む。社会増減がほぼ横
ばいなのに対し、ここ
数年間は1000人の自
然減が続く。子どもを
多く育ててもらうため
妊娠から子育てまでの
一貫した支援に取り組
む。

問 町長は人口減少に
歯止めをと絶えず言っ
ている。しかし積極的
に対策を取っていると
は思えないが。
町長 子育て支援と若
者定住の視点で取り組
む。社会増減がほぼ横
ばいなのに対し、ここ
数年間は1000人の自
然減が続く。子どもを
多く育ててもらうため
妊娠から子育てまでの
一貫した支援に取り組
む。

問 9月議会で解放感
ある玄関に改修するこ
とを要望した。今回の
補正予算で実施を決定
したため、通告した質
問は取り下げる。
今後スピード感あ
る行政運営を期待する。

問 道路維持費は当初
予算から3000万円
にすべきだ。
町長 当初からは難し
いが、住民要望に答え
るような予算にしたい。

問 道路維持費は当初
予算から3000万円
にすべきだ。
町長 当初からは難し
いが、住民要望に答え
るような予算にしたい。

問 3年前、七久保区
では、飯島町でしか通
用しない「耕地」より、
全国的に通用する「自
治会」に呼称変更した。
町内に2つの呼称が
あることは決して良い
状態ではない。行政主
導で早急に自治会に統
一すべきだ。
町長 行政主導で一方
的に切り替えることは
できない。
現在、後期計画策定
にあたり住民意識調査
を行って住民意識調査
に呼称の設問がある。
結果を注視し、必要が
あればそれぞれの地区
に呼称の設問がある。
を行って住民意識調査
に呼称の設問がある。
に切り替えることは
できない。
現在、後期計画策定
にあたり住民意識調査

心で活力あるまちづく
り・環境に配慮した自
然エネルギーの4重点
施策を進めたい。
後期計画5年間は、
持続可能な活力ある町
を求める住民要望に対
応した重点方針となっ
ている。来年度は最終
年度となり基本方針は
一貫している。
決して前年踏襲のコ
ピーではない。

月末の状況は、648
人1240万円となっ
ている。前年度は41人
192万円だった。増
加の要因は、お礼の対
象額を1万円以上に拡
大したこと、お礼の
品の見直しによる。
更なる増額と町産業
の活性化につなげるた
め、お礼の見直しが必
要だが。
町長 新年度に向けて、
制度のリニューアルを
考えている。

耕地・自治会 未加入者

未加入者

問 未加入者に広報が
届けられていない。
広報は町のことがわ
かる重要な文書で、配
布することは行政の義
務だ。なぜ届けられな
いのか。
町長 郵送や職員が自
ら届けることは至難の
業だ。区長・総代会な
どに協力を要請する。

問 全世帯数は343
0、耕地加入率は85・
5%、純未加入世帯数
は228である。
災害・不慮の事故な
どがあった場合、耕地
・自治会に入っていない
ので何もわからない
では済まされない。
未加入者を減少させ
る施策はないか。
町長 地域と話し合っ
ていく。
〔以上3件質問〕



解放感ある玄関に改修される



堀内 克美

人口対策

消滅からの生還策は

最重要課題として取り組む 町長

問 日本創成会議は今年の春、全国市町村のうち896が消滅可能都市だと発表した。当町は中でも、きわめて消滅の可能性が高いと指摘されたが、どう受け止めたか。

町長 全国の半数近くの市町村が消える。その中にわが町も含まれていることは、大変ショッキングな出来事と受け止めた。

問 この発表は、危機感を持って早急に対応するよう促しているが、当町の取り組みは。

町長 社会増減は、ほぼ横ばいであるが、自然増減が大幅減となっている。

発表を受けての取り

組みには至っていないが、子育て支援を含めて新年度予算の重点事項として施策を進める。

問 定住促進には成功するパターンがあると言われている。それは段階的に誘導していくことだ。

まず町を知ってもらうための情報発信、次に情報で交流、訪問交流。それから2地域居住を経て最後に移住・定住に至るステップだ。このようなパターンを意識した定住促進を行っているか。

町長 特別意識して行っていないが、言われるような形で、大都市圏でのセミナーや移住相談、インターネット



自然豊かな町なのに

などを使って進めている。者が望まれる。

問 人口増を考えると、ターゲットとしては現役世代の独身者・既婚者にするのか。

町長 できれば現役世代の独身者・既婚者に重きを置く若者定住を進めたい。

問 地域へ定着して、はじめて移住が成功したと言える。町は移住する集落と移住者の仲介を進め、耕地・自治会加入の促進をすべきだが。

町長 地域との意思の疎通は重要である。何らかの対策が必要であり検討課題としたい。

問 試算では、町の人口は2040年に5697人となっている。50年後を推測すると2185人となるが、せめて7~8000人は確保したい。

この地域では、将来伊南バイパス・リニア新幹線・三遠南信道路が開通する。人口対策を含め新しい町づくりが求められるが、どのような町を

目指すのか。
町長 難しいことだが、特殊出生率の向上や定住促進により、人口減少に歯止めをかけることが重要。

問 策定中の後期基本計画において、人口目標は財政などすべての計画の基礎となる。現実的な目標を。

また50年後の目標も考えるべきだが。
町長 人口目標は、現在9800人の実態を踏まえ、審議会で議論してもらおう。

50年後は、国の目標1億人を参考に議論を行っている。人口対策は最重要課題として取り組んでいく。

(以上1件質問)



浜田 稔

地方創生活法

衰退に根本対策を

国に構造的改革を求める 町長

問 国は、小泉政権の三位一体改革・平成大合併・道州制などの地方政策を進めてきた。その流れと12月に施行された地方創生活法をどう見るか。

町長 三位一体改革で国の権限をしたたかに強化したが、地方は辛酸をなめた。また道州制は地方切り捨てだ。一方、創生活法は、地方が疲弊すると国家が持たないと危機感を抱いた結果なので、若干評価できる。人の流れを地方に向け、仕事を創り、安心して子育てや暮らしができるよう国も真剣に考えようという趣旨だ。英知を集めて良い流れにしたい。

問 創生活法では政府の総合戦略に従って地方も戦略の策定・推進を義務づけられる。町の後期基本計画策定と時期や内容が重なるが、

どう関連づけるのか。

町長 創生活法は27年度中に戦略策定、後期計画は28年度スタートになる。考え方を統一し、重ね合わせて進めることになるだろう。

問 『地方消滅の危機感をあおり、人口だけに議論を絞ると、地方が抱える多くの問題が棚上げにされる。』との記事があった。地方衰退の理由をどう

考えるか。

町長 若者が都市へ流出したこと、結婚観の変化や教育・子育ての経済負担などがある。

問 まず大都市への集中を政府が推進した結果ではないか。

町長 地下鉄大江戸線や外環道、圏央道などに巨費を投じ、規制緩和で超高層ビルも10年で倍増している。この巨大な吸収力に、



バランスある国土に

地方の人口増対策だけで立ち向かえるものではない。一極集中の規制を国に求めるべきだ。

町長 超高齢化は都会から始まるともいう。政府もバランスある国土形成によく気がついたのは意義あることだ。

問 ふるさと大使の岩間氏は講演で、地方を支える要素は食・医療・介護・自然エネルギーだと述べた。

ところが政府が進めているのは、農業破壊のTPP・病床の削減・電力買い取りの制限などだ。ヨーロッパでは地場産業が守られているので、若者がふるさとに戻る。日本では大企業の海外移転で地域の雇用が損なわれ、大店法廃止で地域商店街は衰退した。

地方を疲弊させてきた政策の転換を国に求めるべきでは。

町長 11月の全国町村長大会で地方創生に対する特別決議を採択。国は人口減少や少子高齢化の構造的問題に抜本対策を。

・施策に財政的や制度的な支援を。
・地方交付税の充実。
また『規模や地理条件の異なる自治体に画一的な施策をあてはめるべきではない。』とも強調している。

『アメとムチで地方創生はできない、考え方は国が真剣に示せ』との流れの中でようやく腰を上げたと捉えている。

期待先行かもしれないが、地方は真正面から創生活法を受けとめる。地方の力量も問われる場面なので、議会も町民も一丸となって協力してもらいたい。

〔以上1件質問〕

町民の声を 議会へ

このページは町民の皆さんに取材協力をお願いし、町政や議会への意見や感想を掲載しています。

今回は「駒ヶ根手話サークル」で活躍する新田の中川智博なかがわ ちひろさんに登場していただきます。

聾者と歩き、手話と歩む

手話言語法制定を
求める請願運動

昨年9月議会で「手話言語法制定を求める意見書の提出」の請願にご協力、ご理解いただいた議会の皆様にお礼申し上げます。私も上伊那聴覚障害者協会の協力要請を受け、今回関わられたことうれしく思います。



「みんな大好き」「ね」手話サークルの仲間たち

現在「手話言語法制定を求める…」は全国レベルで行われており、都道府県、地域、市町村によって、その取組は明暗を分けております。10月の時点で、県内77市町村で採択されたのは27にとどまっております。その中で、上伊那全市町村で速やかに採択されたことは、市民活動と議会がうまく

くかみ合った成果だと思えます。自慢したくなりませんが、うれしくもなります。

手話言語法とは？

2006年、国連で「手話は言語である」という障害者権利条約が採択されました。それに従い、日本でも2011年に法整備が進みました。これをもって、約150年間世界的規模で続いた「口話（口の動きを読み取り、自ら声を出す訓練をする方法）なのか手話なのか？」の論争にも幕が閉じられました。二者択一ではなく、「どちらも尊重しましょう」ということです。

長い間、手話は並流のため編み出した大衆文化の扱いでした。テレビの手話通訳を見て「普及しているのに…」と思う方も多いと思いますが、文部省は

手話を認めていませんでした。手話言語法が制定されれば、聾学校で手話を学び、手話で学習ができるようになります。手話通訳者の派遣が確実にでき、手話を使う聾者の社会的地位も上がることでしよう。悲願が達成されるわけです。

手話サークル活動

私は手話が下手で、手話通訳士の資格もありません。が、それだけでいいと思っています。いろいろな形で協力出来ることがあります。いろんな業種・趣味・個性の人たちと交わって、悩みや問題を、解決し少なくするために、サークル活動は必要だと思えます。駒ヶ根手話サークルは、毎週月曜日夜7時半から、高砂園にて活動しております。興味のある方は一度、見学にいらしてください。

編集後記

あけましておめでとございます。これからも皆さまに身近な議会となるよう、委員一同頑張つて参ります。本年も宜しくお願ひ致します。

発行責任者

議長 松下寿雄

編集委員

◎中村 ○浜田 ・本多
・久保島 ・橋場 ・折山

議会だより

クイズ

問題

11月に住民〇〇端会議を開催。〇〇に入る文字は何でしょう。

ヒントは2ページに

正解者5名様にいいちゃん商品券進呈
(締切は2/28、発表は発送をもって代えさせていただきます)



応募要領

住所・氏名・年齢・解答とご意見などを記入のうえハガキ・FAX・いいちゃんポストで、飯島町議会事務局議会だよりクイズ係宛まで